

研究ノート

オンラインプロジェクトインターンシップ実践報告 ー柔軟性のあるインターンシップ実施モデル開発に向けてー

栗原 由加

キーワード：オンラインプロジェクトインターンシップ、教員指導方式のインターンシップ

1. はじめに

本稿は、教育機関が実施するインターンシッププログラムの研究開発をテーマとし、大学に正規留学生として在籍する外国人留学生の単位認定型のインターンシップの事例報告を行う。

神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部日本語コースでは、3年次に在籍する外国人留学生（以下、留学生）全員が参加する授業科目として、2020年度より、教員指導方式のインターンシップ¹を開発してきた。このインターンシップの方式は、オンラインを活用し、受け入れ企業の負担を軽減しながら、日本企業での就職を目指す留学生へのキャリア教育、就職サポートの効果を高める方法として研究、実施してきたものである。その後、2021年度、2022年度と3回の実施を経て、この方式にはプログラム設計および運営上の柔軟性という長所があり、今後、汎用化を期待できるものであることがわかってきた。

教員指導方式のインターンシップは、長期インターンシップとして開発を始めたものであり、学生が教員による指導の下、プロジェクトに取り組む点に特徴がある。このインターンシップを開始して最初の2年間である2020年度、2021年度は、認定単位が8単位であったが、3年目にあたる2022年度は、カリキュラム改正により認定単位数が8単位から4単位になった。これに伴い、インターンシッププログラムの内容を修正し、実習時間を半分にしたプログラムを作成、実施したところ、プロジェクトの内容と業務スケジュールを実習時間に合わせた形に調整することで、インターンシップの実施目的に十分かなう成果を得た。

このことにより、従来より研究、開発を進めてきた教員指導方式のインターンシップについて、学生がプロジェクトを行う、また、オンラインを活用できるという性質により、このインターンシップ方式が持つ柔軟な性質が明らかになってきた。そこで本稿では、栗原(2021)で「教員指導方式のインターンシップ」と仮称したインターンシップを「オンラインプロジェクトインターンシップ」と改称し、2022年度の4単位の授業科目としての実施内容を報告したい。具体的には、2022年度のインターンシップ実施内容を示した上で、インターンシップ時間が半分になった場合の調整箇所と、そこから明らかになった、このインターンシップ方式が持つ特徴について述べる。

2. (2022 年度前期) オンラインプロジェクトインターンシップの実施方法

2.1. インターンシップ概要

- ・期間：2022 年 6 月 28 日から 8 月 8 日までの間の 18 日間
- ・時間数：120 時間²
- ・対象学生：3 年次在籍学生 26 名
- ・学生国籍：中国 14 名、ベトナム 6 名、インドネシア 3 名、台湾 1 名、香港 1 名、コートジボワール 1 名
- ・インターンシップ先：9 箇所（業種：広告、不動産、卸売（機械部品）、教育・交流、公共サービス（図書館）、板金加工、設備、人材派遣、製造（毛髪美容））
- ・方法：オンラインによるテレワーク、大学での対面によるチームワーク、週 1 回程度のインターンシップ先との面談（オンライン／対面）
- ・内容：プロジェクト（外国人留学生、外国人労働者がインターンシップ先の業務について知識を深めるための動画教材の制作）

2.2. インターンシップ実施のモジュール

オンラインプロジェクトインターンシップを実施するためのモジュールは、大きく以下の 4 項目である。

- ・インターンシップ先と学生のマッチング
- ・インターンシップ先への依頼
- ・インターンシップ実施計画：スケジュールを組む
- ・インターンシップ評価

この 4 項目は、2020 年度インターンシップの実施方法を説明した、栗原（2021）「3.2. インターンシップの進め方」（pp.59-61）と、一部分で同一の箇所があるが、改めて以下に、2022 年度の各モジュールの内容を示す。

1) インターンシップ先と学生のマッチング

インターンシップ先と学生をマッチングするにあたっては、以下の項目を判断材料とした。

- ・学生の卒業後の進路希望（日本での就職を希望／母国での就職を希望／進学希望）
- ・学生の経歴、国籍（母語）から判断できる、将来の就職先の可能性
- ・学生の日本語力
- ・インターンシップ先の外国人労働者の採用実績
- ・インターンシップ先の外国人労働者の業務内容
- ・インターンシップ先が希望する学生の属性（国籍、母語）

学生とインターンシップ先のマッチングでは、予定しているプロジェクトをスムーズに遂行

できるか否かを重視する。また、プロジェクトでのチームワークを学ぶため、インターンシップに参加する学生は、2～3名のチームとする。2022年度のインターンシップ先は9箇所であったが、そのうち1箇所については学生2名のチーム、残りの8箇所については学生3名のチームとした。チーム決りを発表した後は、学生に、チーム編成の理由と必然性、チームに期待する成果を明確に説明する。それにより、学生が自分自身の属性、技能についての自己認識を深めること、仕事では、人間関係ではなく、高いレベルの業務遂行を目的としたチーム編成が行われるという認識を持つことを促す。

2) インターンシップ先への依頼

インターンシップ先と学生のマッチング後は、インターンシップ先と以下のやりとりを行う。

- ・インターンシップ先に、インターンシップのスケジュール表(資料1)を提出し、インターンシップの進め方と、インターンシップ先に依頼する業務の説明を行い、了解を得る。
- ・学生の履歴書と推薦状を提出する。
- ・インターンシップ先と、インターンシップ実施内容についての覚書を交わす。

教員の指導で進めるオンラインプロジェクトインターンシップは、全体のスケジュールや勤務方法、プロジェクト内容などを教員が決めるため、インターンシップ先は、インターンシップ期間中の業務進行の全体像がつかみにくい。したがって、教員側は、学生がインターンシップ期間中にどのようなスケジュールで過ごし、毎日どのような業務を行うのか、また、学生はインターンシップ先と具体的にどのような関わり方をし、インターンシップ先は何を担当するのか、面談回数はどのようなペースで行い、全部で何回か、など、事前にインターンシップ先と十分な情報共有をはかる必要がある。

2022年度の9箇所のインターンシップ先は、既に2021年度に、日本語コースのインターンシップ受け入れの実績がある企業であったため、オンラインプロジェクトインターンシップのスケジュールや担当業務について、日本語コースとインターンシップ先に概ねの了解があった。オンラインプロジェクトインターンシップでは、学生とインターンシップ先指導者が顔を合わせて行う面談は週1回程度であり、その他に、1週間に3回程度のメールのやりとりを行いながら業務を進行させる。職場体験型に比べると、学生がインターンシップ先の社員と接する機会が少ないため、業務をスムーズに進行させるためには、教員側とインターンシップ側の十分な情報共有と信頼関係が大切である。

3) インターンシップ実施計画：スケジュールを組む

- ・1日の流れ

1日の業務は、毎日同じタイムスケジュールによって行う。オンラインでの就業時間中、学生は常時指定のZoomミーティングに接続しておく。

時間	スケジュール
9:00	始業（始業の10分前に出席確認） ・ミーティング（30分程度）：1日の業務内容の説明 ・チームで1日の業務計画の相談、業務計画書作成
第1～9日目： 12:45～13:45 第10～18日目 12:00～13:00	休憩（休憩時間終了時刻に出席確認）
15:00～15:15	休憩（15時15分に出席確認）
16:30～17:00	・ミーティング（30分程度）：1日の業務内容の報告 ・業務報告書の作成
17:00	終業

・18日間の構成

インターンシップ期間の18日間を、大きく【準備】【制作】【仕上げ】の三つのタームに分け、各グループの進捗管理を行いながら作業を進めた。各タームの作業段階、提出物、学修内容を以下に示す。

〈18日間のスケジュール〉

	作業段階と提出物	学修内容
1日目（オンライン）	【準備】 ・日報（毎日） ・タイムスケジュール（毎日） ・企業訪問報告（面談日） ・動画教材サンプル	Zoomのマナー
2日目（オンライン）		メールの書き方（お礼、相談、依頼、報告）
3日目（オンライン）		面談の準備方法
4日目（オンライン）		訪問のマナー
5日目（オンライン）		説明の方法
6日目（オンライン）		要望、指示の聞き方
7日目（オンライン）		報告の方法
8日目（オンライン）		報告書の書き方 ファイリング
9日目（オンライン）	【制作】 ・日報（毎日） ・タイムスケジュール（毎日） ・企業訪問報告（面談日） ・動画教材	作業分担の方法
10日目（対面）		提案の方法
11日目（対面）		
12日目（対面）		
13日目（対面）		

14 日目（対面）	【仕上げ】 ・日報（毎日） ・タイムスケジュール（毎日） ・企業訪問報告（面談日） ・工程管理表 ・動画教材 ・動画教材設計図 ・動画教材提出レポート ・インターンシップレポート	チームでの工程管理の方法
15 日目（対面）		チームで自律的に業務を進める方法
16 日目（対面）		成果物の完成度を高める方法
17 日目（対面）		
18 日目（対面）		

（4）インターンシップ評価

インターンシップの評価方法、評価基準は、今後研究を進める必要がある分野である。特に単位認定型のインターンシップの場合、教育機関と企業間の評価方法や評価基準についての考え方、価値観の違いを学生の成績評価に反映させる方法が、まだ確立しているとは言えないからである。ここでは、教員による評価とインターンシップ先からの評価の両方を行ったケースとして、最終的な成績評価に使用した評価項目を以下に示す。

・教員による評価項目

- 1) 就業時間数
- 2) 報告書類の提出の有無と内容
- 3) 最終成果物の内容
- 4) 資料のファイリング

インターンシップでの評価方法は、大学での講義や演習の授業での評価方法とは異なる点があり、事前に学生に周知した。1) の就業時間数の計算と評価については、通常の授業とは異なる方法を採用する。1 科目あたりの認定単位数は 2 単位であり、実習時間としては 60 時間である。遅刻や欠席の扱いは「減点」ではなく、不就労の時間とみなし、合計の実習時間が 60 時間に満たない場合は、単位を認定しない。2) から 4) については、作成、提出方法を指示書により説明した上での業務であるという観点から、「できた／できなかった」の二分評価とする。

・インターンシップ先指導者による評価項目

- 1) 基本的礼儀
- 2) 取り組み姿勢
- 3) コミュニケーション
- 4) 成果物（動画教材）
- 5) チームワーク

インターンシップ先指導者からの評価は、1～5 の段階評価とした。評価の判断方法については「5：非常によくできていた（期待以上）」「4：問題なくできていた（期待通り）」「3：概ね問題なかった（普通）」「2：練習・改善の必要があった（期待を少し下回る）」「1：

できていなかった（期待を大きく下回る）」であることを評価表に示し、各学生についての評価を依頼した。

3. プロジェクト成果物としての動画教材の内容

2022 年度インターンシップでのプロジェクトの内容は、「外国人留学生、外国人労働者がインターンシップ先の業務について知識を深めるための動画教材の制作」である。プロジェクトの内容を教材制作にするという方針は、2020 年度の教員指導方式のインターンシップ以降、大きくは変わらない。これは、日本語を専門とする外国人留学生が、その属性や大学での学修内容を生かして、インターンシップ先の業務に役立つ成果物を制作するという前提であれば、現在、外国人社員が増加する中で、習得に苦勞する職場の語彙学習に関する内容が適していると考えたからである。

ただし、教材の仕様については、2020 年度、2021 年度のパワーポイントで学ぶ教材から、2022 年度の動画を視聴する方法へと変更した。これは、カリキュラム改正に伴い実習時間が半分になったことに伴う変更であることに加え、外国人社員や留学生の現状から、パソコンで学ぶ教材より、スマートフォンで学ぶ教材の方が、外国語学習の現状に合っていることを反映させた変更である。

教材動画作成にあたっては、最初に動画の完成イメージとして 3 パターンの仕様のサンプル動画³と、仕様の理解のための図（資料 2）を作成しインターンシップ先指導者に送信した。その後、学生は、インターンシップ先との面談で動画制作のポイントについて説明し、実際に制作する動画教材に採用したい仕様のパターン、テーマ、内容、デザイン等について、各々のインターンシップ先の要望を聞き、インターンシップ先の希望に合わせてカスタマイズされた教材を制作した。制作した全動画教材の内訳は、添付の（資料 3）のとおりである。

4. 認定単位数（実習時間）の変更に伴うインターンシップ実施内容の変更箇所

既に述べたように、2020 年度および 2021 年度と 2022 年度のインターンシップ実施内容の最も大きな変更点は、認定単位数の変更と、それに伴う実習時間の変更であった。しかしながら、実質的な実習時間は半分であっても、最終的にインターンシップ先から提出された評価表では、成果物の評価が下がることはなく、制作された動画については、「面白い」「パソコンがなくても見られるのがよい」と、好評であった。ここで改めて、以下の表 1 に、2021 年度インターンシップの内容と 2022 年度インターンシップの内容の相違点を対照させて示す。表 1 を見ると、2022 年度は実習時間数は半分になっているものの、実施方法を柔軟に工夫することで、プロジェクトの実施には問題がなかったことが窺える。

表 1：2021 年度と 2022 年度のインターンシップ実施内容の比較

	項目	2021 年度	2022 年度
1	認定単位	8 単位	4 単位
2	実習時間数	180 時間	90 時間
3	参加者	29 名	26 名
4	実習期間	2021 年 6 月 29 日～8 月 10 日	2022 年 6 月 28 日～8 月 5 日
5	期間中の実習日数	25 日	18 日
6	実習スケジュール	期間中の毎週日曜日を除く週 4～5 日	期間中の最初の 4 週間は、火曜日と木曜日の週 2 日。最後の 2 週間は月曜日から金曜日までの週 5 日
7	インターンシップ先との面談回数	5～6 回	4～5 回
8	実習形態	オンライン：20 日 対面：5 日	オンライン：9 日 対面：9 日
9	1 日の就業時間	8 時間	7 時間
10	プロジェクト成果物	オンデマンド教材	動画教材
11	プロジェクト内容	外国人留学生、外国人労働者がインターンシップ先で仕事をするために必要な日本語の語彙、知識を学ぶためのオンデマンド教材の作成	外国人留学生、外国人労働者がインターンシップ先の業務について知識を深めるための動画教材の制作
12	制作ツール	パワーポイント（PPT） クイズレット（アプリ）	VITA（アプリ）
13	教材仕様	学習ファイル（PPT） テスト（クイズレット）	学習動画
14	インターンシップ先	14 箇所	9 箇所
15	チームメンバー数	2 名（13 箇所） 3 名（1 箇所）	2 名（1 箇所） 3 名（8 箇所）

実習時間が半分になった場合に調整が必要になる主な事項は、実施スケジュールとプロジェクト内容であるが、教員が業務管理と運営を行うインターンシップであれば、実施スケジュールは、授業時間との兼ね合いを考えながら、柔軟に設定することができる。必ずしも実習日が毎日である必要はなく、就業時間も大学側で設定できるため、2022 年度の場合は、インターンシップに取り組む期間は、2021 年度とほぼ変わらない 6 週間を確保することができた。また、プロジェクト内容については、インターンシップ実施期間に合うテーマ、業

務量を工夫すれば、教員が指導すべき学修項目は維持しつつ、コンパクトな実施が可能になる。プロジェクト実施のための業務内容に合わせて、オンラインと対面の方式を柔軟に組み合わせ、効率的な業務遂行方法を採用できることも、オンラインプロジェクトインターンシップの特徴であり、2021 年度に対して 2022 年度には対面での実習を多く取り入れたことが、学生のチームワークの効率を高めたという側面もあった。

このことにより、栗原（2021）では、教員指導方式でのインターンシップの長所として、従来の通勤による職場体験型のインターンシップにはなかった以下の 1) 2) を挙げたが、この二点に加え、本稿では、2022 年度のオンラインプロジェクトインターンシップでの経験により、以下、3) 4) 5) の三点の特徴を長所として追加する。

- 1) 学生の所在地を選ばない。
- 2) インターンシップ受け入れ先企業、職種の可能性が増える。
- 3) 実施期間、実習日数を柔軟に設定できる。
- 4) プロジェクトのテーマ、業務量を実習時間に合わせて設定できる。
- 5) 実習形態（オンライン、対面）のいずれでも実施できる。

5. まとめ

本稿では、2022 年度に実施した企業インターンシップの方式をオンラインプロジェクトインターンシップと称し、その実施内容を述べた。また、2020 年度、2021 年度の企業インターンシップと実施内容を対照させることで、オンラインプロジェクトインターンシップには、次の三点の長所があることを指摘した。1) 実施期間、実習日数を柔軟に設定できる。2) プロジェクトのテーマ、業務量を実習時間に合わせて設定できる。3) 実習形態（オンライン、対面）のいずれでも実施できる。

日本国内の現状では、留学生の長期インターンシップについて、まだ十分に経験があるとは言えず、その在り方について議論を行うために、現在は事例を蓄積していく段階にあると考えている。オンラインプロジェクトインターンシップは、留学生のインターンシップ実施、受け入れのハードルを下げる手法の一つとして、今後も継続的な実施と効果の検証を続けるべきものだろう。

〈注〉

- 1 栗原（2021）で実践報告を行った、プログラムの企画、運営を主に教員が担当する方式のインターンシップ。コロナ禍をきっかけに、2020 年度より実践、研究を継続している。
- 2 インターンシップ実施時間数と日数については、次のように計算した。実習 1 単位につき、120 分×15 コマ=1,800 分=30 時間。実習 4 単位では、30 時間×4=120 時間。本インターンシップでは 1 日の実習時間を 7 時間としたため、単位認定のために必要な日数は 18 日以上である。
- 3 動画制作に先立ち、3 パターンの動画サンプルをインターンシップ先に提示した。第 1 のパターンはフラッシュカード、第 2 のパターンはストップモーション、第 3 のパターンはリピート練習であ

る。第1のフラッシュカードとは、画像と学習語彙と学習語彙の音声を等間隔で順番に提示する仕様である。第2のストップモーションとは、動画を流しながら、学習語彙が出てくる度に動画を一旦停止し、その語彙と音声を再提示した後に、続きの動画を流す仕様である。第3のリピート練習とは、学習語彙を含むフレーズを練習するために、フレーズの音読と、同じ時間のリピート練習のための時間を交互に繰り返す仕様である。

〈参考文献〉

栗原由加（2021）「教員指導方式のインターンシップの試みーオンラインを活用したインターンシップ実践報告ー」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第6号、pp.57-67.

〈謝辞〉

外国人留学生のインターンシップの試みにご協力いただき、ご指導くださったインターンシップ受け入れ先のみなさまに、心よりお礼を申し上げます。

2022年（令和4年） インターンシップスケジュール

6月

1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	<第1週> ・ご挨拶メール準備
29	水	
30	木	

7月

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	<第2週> ・ご挨拶メール送信
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	<第3週> ・面談（動画教材 内容と構成の相
13	水	
14	木	○
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	<第4週> ・進捗報告、取材 ・動画教材制作
20	水	
21	木	○
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	<第5週> ・進捗報告、取材 ・動画教材制作
27	水	
28	木	○
29	金	
30	土	
31	日	

8月

1	月	<第6週> ・進捗報告 ・動画教材修正、 仕上げ、完成
2	火	
3	水	
4	木	○
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	動画教材提出
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

テレワーク日（9時から17時まで、教員指導でインターンシップ先のための教材作成作業を行います。）

○ 面談候補日（仮）：実際の面談日は相談の上で決定します。

資料 2

● 動画教材パターンA（スライドショー）

目的：単語を映像とともに覚える

（1 サイクル 5 秒）

秒数	1 秒	2 秒	3 秒	4 秒	5 秒
画像	○				
文字			○		
音声				○	

5 秒	5 秒	5 秒	5 秒	5 秒	5 秒	5 秒	5 秒	5 秒	5 秒
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

（1 分の場合）

● 動画教材パターンB（ストップモーション）

目的：まとまりのある内容を理解しながら、キーワードも学ぶ。

（1 サイクル 7 秒）

秒数	1 秒	2 秒	3 秒	4 秒	5 秒	6 秒	7 秒	8 秒	9 秒
動画						動画を止める		再開	
テロップ								再開	
ナレーション								再開	
文字						○			
音声							○		

7 秒	7 秒	7 秒	7 秒	7 秒	7 秒	7 秒	7 秒	7 秒
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

（1 分の場合）

● 動画教材パターンC（リピート練習）

目的：キーワードを使った文を自然なスピードで言えるようになる

（1 サイクル 8 秒）

秒数	1 秒	2 秒	3 秒	4 秒	5 秒	6 秒	7 秒	8 秒
画像なし								
文	○				○（再）			
読み上げ	あり				なし			
メロノム	チン	チッ	チッ	チッ	チン	チッ	チッ	チッ

8 秒	8 秒	8 秒	8 秒	8 秒	8 秒	8 秒	8 秒
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

（1 分の場合）

学生が制作した動画教材の内訳

	業種	制作番号	動画の長さ	内容（概略）
A 社	広告	(1)	4 分 30 秒	会社紹介
		(2)	7 分 24 秒	リーフレット制作方法
B 社	不動産	(1)前半	4 分 33 秒	会社紹介
		(1)後半	5 分 57 秒	物件探し
C 社	卸売（機械部品）	(1)	1 分 33 秒	イントロダクション
		(2)	2 分 58 秒	会社紹介
		(3)	2 分 6 秒	会社紹介語彙学習
		(4)	4 分 10 秒	活動紹介
		(5)	2 分 38 秒	活動紹介語彙学習
		(6)	2 分 6 秒	先輩の経験談
		(7)	2 分 22 秒	先輩の経験談語彙学習
D 社	教育・交流	(1)	3 分 10 秒	神戸旅行
		(2)	2 分 36 秒	関西の激安スーパー
		(3)	4 分 39 秒	電車に乗ろう
E 社	公共サービス（図書館）	(1)	4 分 00 秒	図書館本館の紹介
		(2)	3 分 52 秒	図書館新館の紹介
		(3)	3 分 00 秒	図書館の地下の紹介
		(4)	4 分 54 秒	図書館のウェブサイト紹介
F 社	板金加工	(1)	3 分 30 秒	板金加工の流れ（日本語）
		(2)	3 分 30 秒	自社製品の説明（日本語）
		(3)	4 分 24 秒	労働安全衛生（日本語）
		(4)	3 分 33 秒	板金加工の流れ（ベトナム語）
		(5)	3 分 25 秒	自社製品の説明（ベトナム語）
		(6)	4 分 29 秒	労働安全衛生（ベトナム語）
G 社	設備	(1)	2 分 54 秒	手アーク溶接の種類
		(2)	3 分 00 秒	半自動アーク溶接の種類
		(3)	3 分 24 秒	自動アーク溶接
		(4)	3 分 06 秒	溶接道具と装備 A
		(5)	3 分 09 秒	溶接道具と装備 B
		(6)	3 分 01 秒	溶接の安全防具 A
		(7)	2 分 37 秒	溶接の安全防具 B
		(8)	2 分 28 秒	溶接基本記号①
		(9)	1 分 57 秒	溶接基本記号②
		(10)	2 分 03 秒	溶接基本記号③
		(11)	1 分 09 秒	溶接基本記号④

資料 3

		(12)	1 分 17 秒	溶接基本記号⑤
H 社	人材派遣	(1)	1 分 22 秒	会社紹介
		(2)	1 分 25 秒	業務内容紹介
		(3)	4 分 02 秒	通関の流れ
I 社	製造（毛髪美容）	(1)-1	1 分 20 秒	商品の紹介
		(1)-2	1 分 39 秒	商品の紹介語彙学習
		(1)-3	1 分 5 秒	商品の紹介レポート練習
		(1)-4	1 分 56 秒	会社の歴史紹介
		(1)-5	0 分 53 秒	会社の歴史語彙学習
		(1)-6	1 分 01 秒	会社の歴史レポート練習
		(1)-7	0 分 59 秒	コンセプトの紹介
		(1)-8	0 分 53 秒	コンセプトの語彙説明
		(1)-9	1 分 02 秒	コンセプトのレポート練習